

花穂の開花時期で判断する加温「シャインマスカット」の果実品質低下の回避技術

表1 開花時期の早晚（満開日）が結実率に及ぼす影響

区 ^z	満開日		結実率 (%)
	(月/日)	(差)	
早期開花	3/15	(-5)	96.5
標準開花	3/20	(0)	94.9
遅延開花	3/24	(+4)	89.0

^z 80%開花を満開とし、開花期を区分

表2 開花時期の早晚が収穫時の果実品質に及ぼす影響

区	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (° Brix)	かすり症 程度 ^z
早期開花	784	19.7	16.1	1.3
標準開花	692	18.6	16.5	1.1
遅延開花	558	14.5	16.6	2.1

^z 0：無、1：3粒以下の発生で軽微、2：半数未満の果粒に発生、3：半数以上の果粒に発生し、症状も重く商品性が劣る

開発のねらい

「シャインマスカット」の加温栽培では、同一樹内での開花期のばらつきが大きく、ホルモン処理などの栽培管理が繁雑になるだけでなく、果実品質が安定しにくくなります。そこで、開花時期の早晚が結実や果実品質などに及ぼす影響を明らかにしました。

新技術の概要

- 加温栽培では、開花のばらつきが大きく、開花が遅い花穂は結実率がやや低い傾向がみられます（表1）。
- 開花の早い花穂と標準的な花穂とでは、結実や果実品質には大差ありませんが、開花が遅い花穂は、果粒重が小さく、かすり症を生じやすいことが明らかとなりました（表2）。
- このため、安定した結実や障害の発生が少なく、果粒肥大が良い果実を生産するためには開花の遅い花穂の利用を避けることが推奨されます。

活用場面

加温栽培において、果実品質が高く、生理障害の少ない果実生産が可能となります。